

元首相の中曽根康弘氏が主宰する研究所が、曖昧な場所で起こりうる非常事態に対していかに対処するかを日本政府に提言されました。一般国民にはチョット難しい問題です。専門家でもこの方面に余程の知識がないと理解できないのではないかと思います。

勿論私にはさっぱり分かりませんし、それが実施されれば、どのような効果を生むのかもわかりません。中曽根研究所の提言を、ザーと読み進み、良し悪しの判断もせず、お届けします。日本防衛のために、「俺はもっと知りたい」という方がおれば、私がお付き合いします。一緒に勉強しましょう。どなたか防衛に詳しい方あれば、私にお教え下さい。本文は以下の通りです。

「日本会議メール情報」 平成 30 年 7 月 2 日 (月) 通巻 第 1695 号

[防衛] 世界平和研、グレーゾーン対処を提言 日本会議事務総局 担当 村主真人

中曽根康弘世界平和研究所は 26 日、「海と空のグレーゾーン事態への対処」と題する提言書を公表しました。

平時でも有事でもない「グレーゾーン事態」については、平和安全法制が議論された際にも課題の一つに挙げられました。

最終的に「領海及び内水で国際法上の無害通航に該当しない航行を行う外国軍艦への対処」「離島等に対する武装集団による不法上陸への対処」「公海上で我が国民間船舶に対して侵害行為を行う外国船舶を自衛隊船舶等が認知した場合の対処」については、現行の法体系のもとで、閣議決定で対処するとし新たに法整備は見送られた経緯があります。

提言書では、限られた人的資源の中で海保と海自の相互補完が必要であるとの観点から、事態を抑制するためには、法執行機関である海保の能力向上が重要であるとの前提に立ち、現行の問題点と、今後のあり方について提言しています。

[問題点]

- 現場における海保・海自の連携上の懸念
- 武装集団による不法上陸を阻止するための武器使用権限の不足
- 自衛隊による法執行活動であることについての誤認の懸念
- 多様化する領空侵犯事態への対応の問題点

[提言]

- 1, 海保の能力向上とそのための自衛隊による支援
- 2, 海保勢力を対象海域へ集中できる体制の構築
- 3, 海自の後方支援による海保巡視船の連続運用能力の向上
- 4, 対象海域近傍での護衛艦の定期的な巡航
- 5, 海上警備行動時における法執行機関たる海保による海自の統制
- 6, 海上民兵の実態を明らかにすること
- 7, 武装集団による不法上陸を阻止するための武器使用権限の強化
- 8, 海自における法執行任務のための教育訓練の拡充
- 9, 護衛艦による法執行活動の国際社会への明示
- 10, 多様化する領空侵犯事態への横断的取組みの強化

中曽根康弘世界平和研究所HP <http://www.iips.org/>

中曽根世界平和研究所のホームページを開いてみて驚いた。私には始めて知る研究所名であるが、既に 30 年の実績を有する堂々たる世界的な研究機関のように見える。閣議了解を得た上での設立であるから、半分国策機関で政府に対する諸提案を行うシンクタンクである。道理で難しい

ことが一杯書いてあることに納得いった。膨大な資料が附いていて、とても読めるものではない。

設立が昭和 64 年で、平成時代を全部分析、必要な資料を揃え、適時に提言を作製、政府関係者の知恵袋となって働かれてきたのであろう。一般庶民にはその存在さえ知らぬ人が多いはずだが、世界の平和のため、また日本と日本人のために無くてはならない貴重な存在なのであろう。

この度の「グレーゾーン」問題に対する提言も、現在の日本の置かれた状況をふまえた適時適切な且つ基礎的な用件を満たしたものであろうと思う。しかし日本国にとって最も大事なことは、日本人が誇りをもって、自分の国を護るというではないかと私は考えている。何故戦後 70 年が経ち、研究所が設立されて 30 年も経つというのになぜ『新憲法試案』に関しての提言をなされなかったのかと疑問に思う。

また如何にすれば国民の意識を憲法改正に向かわせるかなどの提言こそ、大事であると思う。時の政府が、実行し、世の中を変えられてこそ提言の値打ちではないだろうか。首相経験者をトップに抱き、時の政権と近い位置にあってこそ出来る、いろいろな案件を鋭意研究して下さる機関があることを知って、非常に心強く感じている。

日本会議に近いシンクタンクに国家基本問題研究所があります。略省「国基研」ですが、この団体は 10 年ほど前に設立された団体で、理事長が桜井よしこ先生、副理事長が田久保忠衛先生です。その田久保先生が日本会議の会長です。この民間の独立した団体であり、政治団体ですが、国家から補助を受けていない。このシンクタンクで考えられたことが、日本会議の行動基盤になっているように思います。トップの人事を見ると重複している方が多い。「改憲賛同者 1000 万署名運動」も、理屈を言っているだけでなく、実際に国民に訴え、行動に移す活動を繰り広げている。

ブラジルに居ても、この会には入会できません。私は 3 年ほど前に入会してますが、会員になると、2 月に一回 30 ページ程度の『国基研だより』が送られてきます。ただそれだけですが、その内容は「日本国の現状と未来」を示唆するものが多く、誠に楽しみである。「日本人の不屈の闘志」を味わい、爽快さを感じています。

グレーゾーンの話には触れずじまいとなってしまったが、最前線で頑張ってくださいっている海上警察の方々、海上自衛隊、或いは年 1000 回ものスクランブル飛行をする航空自衛隊の勇者たち、一発触発の危機を体を張って頑張っている。有り難さに体が震えます。一方軟弱にして平和を謳歌している未来の日本の担い手たちに、現下の日本の姿を伝える方法はないものか。だれがそれを考えるのか。日本が世界の見本になる時代がくると私は信じていますが、日本の心を立ち上がらせるのは誰なのか、いつもそんなを想像を膨らませています。

徳力啓三